

(3) 事業遅延の理由

野尻湖周辺ではナウマンゾウの臼歯が発見され、昭和37年より発掘調査が始まりました。野尻 IC 関連事業箇所においても遺跡が広範囲に分布しており、工事に先立ち埋蔵文化財調査が必要とされ、供用箇所についてはほぼ全線にわたり発掘調査を行いました。この調査では総じて新発見が相次ぎ、当初予定に比べ期間を要しました。



写真 A 文化財調査風景

事業スケジュール

	名称	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
当初計画	調査・設計																								
	用地買収																								
	工事																								
変更計画	調査・設計																								
	用地買収																								
	埋蔵文化財協議																								
	埋蔵文化財調査																								
	工事																								

(4) 事業遅延の社会的影響

しなのまち
 信濃町地域は、長野県でも有数な豪雪地帯であり、人家が連担している地区では、歩道幅員が狭く道路幅員が狭隘であり、降雪時においては、堆雪帯がないことから歩道に雪が堆雪されて歩行者には危険な状況となっています。また、縦断勾配が最大6%の区間があり、大型車が多く混入する地域であることから、降雪時の除雪作業における安全性や快適性を確保する必要があります。また、当事業区間では平成9年以降死亡事故が7件発生しており線形不良箇所集中しています。

当事業により、側帯（堆雪帯）及び歩道が整備されること、また線形改良を行なうことで、安全かつ円滑な交通流の確保が期待されますが、事業の遅延によりこれらの整備効果の発現が遅れることが懸念されます。



写真A 除雪状況



(5) 改善措置

埋蔵文化財調査においては、用地買収の終了した箇所から順次行い、早期工事着手、早期供用を目指します。

(6) 今後の予定

野尻 IC 関連事業においてはバイパスの整備を図ることで冬期において市街地を通過せずに交通を処理し、交通障害を回避することが可能となり、地域住民の安全性を確保することができます。よって未整備区間である上町地区のバイパス化を優先的に進め、平成21年度の供用を目指し事業促進を図ってきます。

(7) 地元の状況

組 織	会 長	主要メンバー	要望内容
一般国道18号野尻バイパス促進期成同盟会	<small>しなのまち</small> 信濃町議会議長	沿線区長	第1工区(L=4.5km)の早期事業着手

(8) 費用対効果

路 線 名	国道18号
-------	-------

事業名	野尻バイパス
延長	L = 8.7 km

便益 (単位：億円)

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成16年度			
基準年における 現在価値 (B)	201	15	0	216

費用 (単位：億円)

	改築費	維持修繕費	合計
基準年	平成16年度		
単純合計	131	100	231
未完成区間の 事業全体について 基準年における 現在価値 (C)	106	37	143
H17以降の 残事業について 基準年における 現在価値 (C)	104	37	141

算定結果

費用便益比 (C B R) : 未完成区間全体			
	便益の現在価値の合計 (B)	216 億円	
$B / C =$	$\frac{\quad}{\quad}$	$=$	$= 1.5$
	費用の現在価値の合計 (C)	143 億円	
費用便益比 (C B R) : H17以降の残事業			
	便益の現在価値の合計 (B)	216 億円	
$B / C =$	$\frac{\quad}{\quad}$	$=$	$= 1.5$
	費用の現在価値の合計 (C)	141 億円	

- 注) 1. 費用及び便益額は整数止めとする。
 2. 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。
 3. 事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行なっている。